とどけ！ 静寂の闇の中に

渡邉 智恵子
福井県

福井県の光道園内にある「越前町障害者支援センターさざんか」
相談支援専門員の渡邉智恵子さん。
名刺にはこれだけの資格が記されている。
――社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・
社会福祉主事・知的障害援助専門員・知的障害福祉士・
福祉住環境コーディネーター２級・全国手話検定１級・福井県登録手話通訳者・
盲ろう通訳介助者――

相談に来る人々がもっと幸せに暮らせるように！ と彼女は願う。
行政や法律・財政が縦糸であるとすれば、
この資格の出来得るすべての智恵を横糸に組み込む作業が
渡邉さんの仕事です。
重複障害の相談が多い分、多くの知識が必要になったと言う。
多くの相談者を「編み込まれた布」で
やさしく包み込むことが渡邉さんの生きがいである。
渡邉さん自身、難しい問題に遭遇した時、周りの同僚たちに
やさしく包んでもらった過去がある。
光道園なしでは今の自分は考えられない、と語った。

触手話は一対一の会話です。一言一言が相手に、大きな意味を持つ。
今日の表情や気持ちを感じて会話する姿は、家族の様であり、友人の様でもある、
もっとも信頼できる人なのです。繊細な掌の感触や指先で伝える会話が
渡邉さんの人としての大切な感性も磨きあげてゆく。

龍双ヶ滝（日本100名滝の一つ）

福通研の仲間とかずら橋にて

越前町障害者支援センターさざんかのメンバーと

高齢聴覚障がい者
ミニミニデイサロン役員会

連日の仕事や活動や家庭の多忙な中、オフの時にハマっている場所がある。
池田町の龍双ヶ滝とかずら橋である。
盲ろうの人々は「愛を降り注ぐ滝のパワー」を日々の渡邉さんに感じているだろう。

［あ・り・が・と・う］　と触手話がやりたくなった。

写真 / 文　松本　博